

## 新型コロナ変異株が猛威をふるうブラジル

経済調査部 上席研究員 森川 央  
[morikawa@iima.or.jp](mailto:morikawa@iima.or.jp)

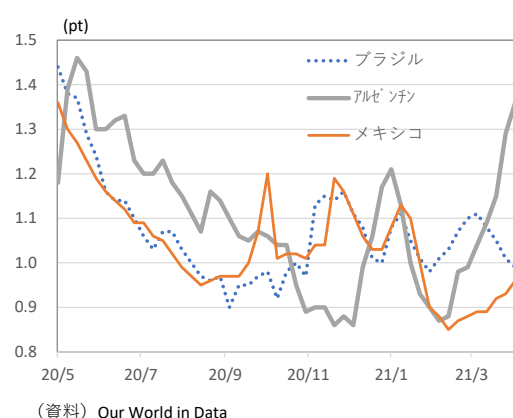
### 1. 変異株のまん延に加え、医療崩壊で死者が急増

ブラジルの新型コロナ新規感染者数（一日当たり、5日移動平均）は2020年8月に一旦ピークをつけたあと、11月からは再び増加してきており、第2波に入っている（図1）。その後、ごく短期間一時的に低下したことはあったが、最近の新規感染者数は7万人/日台に入っており、累計の死者数も約35万人と米国に次いで世界で2番目に多い。1人の患者が何人にうつすかを示す実効再生産数（R-rate）は、第2波に入った後1.0を下回ることなく、最近も1.0を上回ったまま推移している（図2）。

図1 ブラジルの新型コロナ感染状況



図2 新型コロナ実効再生産数



特に警戒を要することは死者数の急増である。一日当たりの死者数は1月後半から増加してきており、2月後半からは更に加速している（図1）。現在、ワクチンの効果で米国の死者数が減少してきているので、一日当たりの死者数ではブラジルが世界一となる不名誉な記録を残してしまった。

急増の背景には、感染力が高いとされる変異株が流行したことによる医療供給体制の圧迫がある。ブラジルの日本語紙ニッケイ新聞電子版（3月19日付）によると、17日現在で全国27の連邦自治体（26州と連邦直轄区）で集中治療室（UTI）の占有率が80%を下回っているのはロライマ州の73%のみである。残り25州うち15州で90%を上回っている。

医療崩壊の結果、入院できず自宅で亡くなる患者も多く、棺や墓地が不足する地域も出てきているという。ブラジルの新型コロナ感染状況は悪化の一途をたどっている。

## 2. 10-12 月期は前年比-1.1%に改善。2020 年の年間成長率は-4.1%

新型コロナウイルスの流行が始まった 4-6 月期以降の実質 GDP 成長率（前年比）を振り返ると、4-6 月-10.9%、7-9 月-3.9%、10-12 月-1.1%と、マイナス幅が順調に縮小してきた。ボルソナロ大統領は感染症対策軽視・経済重視の姿勢で、全国レベルでの外出制限に消極的であった。感染症対策の不足は批判を招いたが、低所得者・貧困層には現金給付策を実施し支持を集めた。このため消費の寄与度は 4-6 月の-9.8 ポイント（以下 pt）から 7-9 月は-5.0pt に縮小したほか、純輸出も 4-6 月の 2.1pt から 7-9 月は 3.6pt、GDP を押し上げることになった。

この流れは 10-12 月期も続いており、消費の寄与度は-2.9pt に縮小したほか、固定資本形成は+2.4pt と半年ぶりにプラス寄与となった。

図 3 実質 GDP（前年比）と需要別寄与度

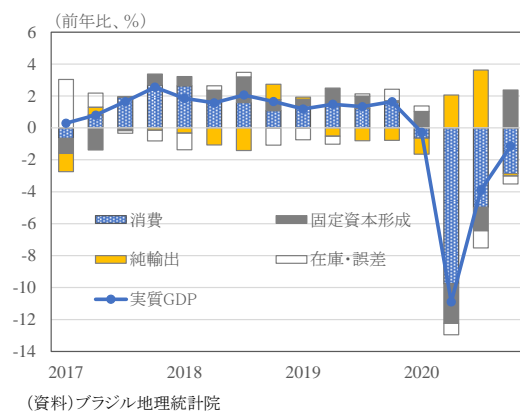
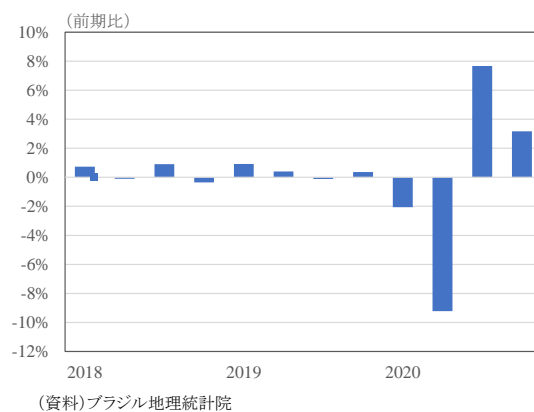


図 4 実質 GDP（前期比）



しかし、財政負担が大きいので、低所得者向け現金給付は 2020 年 10 月から縮小され 12 月に終了した。GDP を前期比で見ると、7-9 月は 7.7%に急伸したものの 10-12 月は 3.2%に落ちており勢いには衰えが見られる（図 4）。そのため現金給付の再開を求める声が高まってきており、連邦議会で審議が始まっている。

## 3. ブラジル中央銀行は利上げに着手

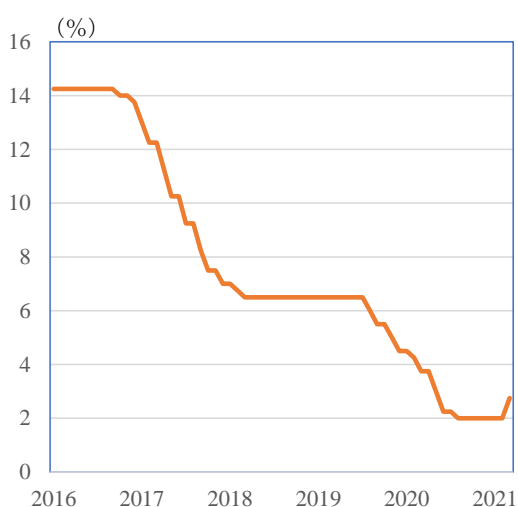
こうした中、ブラジル中央銀行は 3 月 17 日、政策金利を 2.00%から 2.75%へ 0.75%引き上げることを全会一致で決定した（図 7）。市場参加者の予想の平均は 0.5%だったので、中銀がインフレを強く警戒していることをうかがわせる。

ブラジルでは燃料価格引き上げの影響などから、消費者物価が前年同月比 5.2%と 4 年ぶりの高い伸びとなり、中央銀行が設定しているインフレ目標の上限（5.25%）に接近してしまった（図 8）。さらに為替レートを見ると、新型コロナ感染が本格化した 2020 年 4 月以降 1 ドル=5 レアル台が定着しており、今後輸入品の値上がりがエネルギー以外にも広がっていくことが懸念される。

為替レートについては、政治からも波乱要因が生まれている。3月8日、最高裁がルーラ元大統領に下されていた有罪判決4件（収賄罪）を取り消し、裁判のやり直し（州裁判所から連邦裁判所へ移管）を決めた。ブラジルの司法制度は複雑でこの決定も確定したわけではないが、今も低所得者層に圧倒的な人気がある元大統領が、2022年の大統領選挙に立候補できる可能性が生まれたのである。

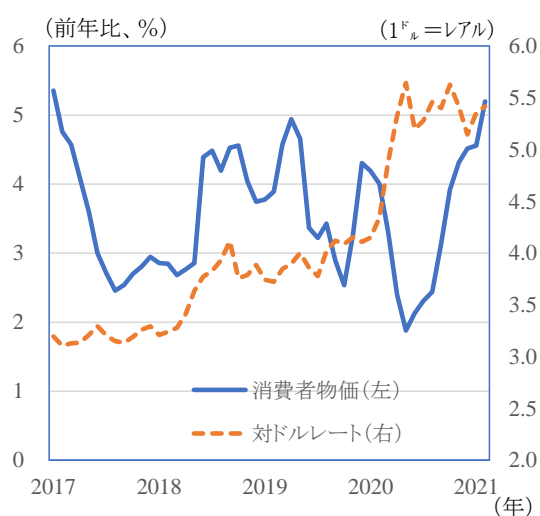
新型コロナ感染拡大で、ボルソナロ大統領の支持率は低下している一方で、仮にルーラ元大統領が立候補すれば、ボルソナロ大統領の再選を阻むのではないかと、という見方が浮上している。大統領選挙が混線模様になること、すなわち不透明感の高まりはリアル安要因になり、今後もインフレ要因としてくすぶる可能性がある。

図 5 政策金利



(資料)ブラジル中央銀行

図 6 消費者物価と為替レート



(資料)ブラジル中央銀行

#### 4. スタグフレーション下のブラジルを変異株が襲う

感染再拡大が加速し始めた1,2月の経済指標はまだ出そろっていないが、速報性の高い自動車登録台数の前年比を見ると、12月の-7.2%から、1月-11.4%、2月-16.9%と、再び悪化してきている（図8）。景気は失速に向かっている可能性が高い。

インフレ率は今後も上昇、ないしは高止まりすると思われるので、ブラジルはスタグフレーションに向かっている。そのブラジルを変異株が容赦なく苦しめる。変異株の影響は深刻である。日本では「ブラジル型」と一くくりに報じられているが、確認されているだけで5種類の変異株が見つかった。そのうちマナウスで発見されたP1型と、リオ州で発見されたP2型は感染力が非常に強いだけでなく、どちらも同時期に感染する重複感染や再感染を起こしやすいと恐れられている型である。

医療供給体制が崩壊しつつあるブラジルが早期に新型コロナ流行を食い止めるには、強力なロックダウンを実施するほかないだろう。だが、ロックダウンはボルソナロ大統領にとっては、自らの失政を認めることになるうえ、景気失速を起こした昨年4-6月期の二の舞となる。ブラジルの見通しは厳しい。

図 8 自動車登録台数



以 上

Copyright 2021 Institute for International Monetary Affairs (公益財団法人 国際通貨研究所)  
 All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.  
 Address: Nihon Life Nihonbashi Bldg., 8F 2-13-12, Nihonbashi, Chuo-ku, Tokyo 103-0027, Japan  
 Telephone: 81-3-3510-0882  
 〒103-0027 東京都中央区日本橋 2-13-12 日本生命日本橋ビル 8 階  
 電話 : 03-3510-0882 (代)  
 e-mail: [admin@iima.or.jp](mailto:admin@iima.or.jp)  
 URL: <https://www.iima.or.jp>

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。